

Ⅱ 各教科

1 国語

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目に対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が96%以上であった。また、教科に対する興味・関心も肯定的な回答をした生徒が76%であった。生徒にとって概ね納得できる授業になっていると考えている。

イ 学力の状況

- ・「知識・技能」について

89%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

中学校で新たに学習したこと（文法など）をそのときに理解することはできるが、小学校で学習した漢字を正しく書くことや以前に学習したことを別の学習時に活用することには課題がある。

- ・「思考・判断・表現」について

81%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

自分の中でじっくり考えることはできるが、その自分の考えたことを伝え合うことや、共有したことをもとにさらに考えを深めたりすることに課題がある。

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。

85%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

授業に対する姿勢や課題の提出状況もおおむね良好であるが、ノートに自分が考えたことを整理して後から見返せるように記述したり、学習の振り返りを充実させたりすることに課題がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・学習した内容を反復学習することを通して、他の学習でも活用できるスキルにする。
- ・相互に考えを共有することを通して、自身の考えを広げたり深めたりする。
- ・学習の振り返りを通して、自身が身に付けた力や身に付けたい力を意識して、日々の学習に取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元で身に付ける力を毎時間めあてを提示して生徒に意識させることで、どんな力を身に付けたのか具体的に分かるようにする。
- ・相互に考えを共有するツールとしてタブレット端末を活用することで、自分の考えを伝えるハードルを下げるとともに共有した内容を後から見直せるようにし、考えを広げたり深めたりしやすくする。
- ・めあてと振り返りを一体化することで、身に付けた力と身に付けたい力を意識して目的をもって学習できるようにする。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。

- ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 授業での学習内容に関連したワーク課題を出して、次時の授業時にチェックを行い、取り組みについて声掛けをする。

エ 授業の受け方

- ・ 毎時めあてと振り返りをノートに記述するか、学習者用端末を活用して記録に残し、学習の成果を確認させる。
- ・ 学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が平均96%以上であった。また、教科に対する興味・関心も肯定的な回答が74%以上にのぼり、生徒にとって概ね納得できる授業になっていると考えている。

イ 学力の状況

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。
授業に取り組む姿勢や課題の提出状況等は良好である。内容的には74%以上の生徒がおおむね満足できる状況である。
- ・「知識・技能」について。
46%以上の生徒がおおむね満足できる状況にある。
古典の暗唱で準備不足が目立った。しかし、漢字の書き取りに関してはおおむね満足できる状況にある生徒の割合は67%になり、小学校で学習する漢字の定着は向上している。
- ・「思考・判断・表現」について。
76%以上の生徒がおおむね満足できる状況にある。
人前で話すことに抵抗感を示す生徒が少ない。また、放送音声の聞き取りは81%の生徒がおおむね満足できる状況にある。これは昨年度より向上している。
文章を書くことに抵抗感を示す生徒が少ない。一方で、書いた文章を推敲する経験が少なく、自己修正が不十分である。書いた文章がおおむね満足できる状況にある生徒は57%である。
読書を好む生徒が大変多い。朝読書に集中して取り組み、休み時間等の空いた時間にも本を開く生徒が多い。読解問題では70%の生徒がおおむね満足できる状況にある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身につける。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身につける。
- ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法等を確かめ、読みやすく分かりやすい文章にする力を身につける。
- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身につける。また、字形を整えて書く習慣を身につける。
- ・「国語の学力を向上させる」という意欲をもって、日々の学習に取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身につけたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・授業プリントやレポート点検等、生徒の個々の取り組みを評価する機会を増やす。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、タブレット端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
- ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・毎時間授業プリントを作成する。学習内容や流れが分かるように、1回の授業でプリントは基本一枚にする。

ウ 家庭学習の定着

- ・5分間程度の帯時間を利用して、漢字学習を行う。「覚える」→「練習する」→「確かめる」という学習の基本的な手順を踏ませながら、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・家庭学習の課題は提出を促し、点検を通じて自ら学習するように働きかける。
- ・必要に応じて家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかけをする。

エ 授業の受け方

- ・挙手や発言をすることを奨励し、授業に積極的に参加しているという自覚をもたせる。
- ・タブレット端末を活用して、授業ごとの振り返りを行い、学習の成果を確認させる。
- ・タブレット端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・全体として、授業に対して積極的であり、態度も良好である。また、進路と関連しての学習意欲の向上も見られている。
- ・授業評価アンケートの回答では、すべての質問項目に対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答した生徒が97%を占めており、生徒にとって概ね納得できる授業になっていると考えている。
- ・課題や宿題等は期限内に提出できている生徒が95%以上と多い。
- ・毎週の小テストに向けて多くの生徒が意欲的に学習に向かっている。
- ・発言することに、苦手意識を持っている生徒が見られる。意見や感想はもっているものの自ら発言する生徒は特定されている。
- ・文章作成では、昨年度に比べ、前向きに課題に取り組み、表現を工夫した書き方が見られるようになった。しかし、まだ、書く上での適切な言葉選びや構成・説得力の向上には課題がある。
- ・読解では、物語や小説の情景描写や言動に注意して心情を想像しながら読もうとしている。朝読書の時間も熱心に読んでいるが、ジャンルに広がりが見られない。

イ 学力の状況

全国学力・学習状況調査から

- ・知識・技能、思考・判断・表現の2領域で全国平均を上回っている。
- ・多くの項目で無回答率が1%以下なのに対し、「現代語と古典を比較する」の問題では無回答率が9%と高かったが、正答率は、全国平均を12ポイント上回っている。書かない、よく書ける、の二極分化していると考えられる。

定期考査、授業の様子から

- ・話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す力、全体と部分との関係に注意して、相手の反応を踏まえながら話す力に課題がある。
- ・論理的な文章に苦手意識をもつ生徒が多く、読んだり書いたりする機会を増やしていく必要がある。
- ・漢字の読み書きの力は伸びている。毎週の小テストに意欲的に取り組み、毎回中央値は満点となっている。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身につける。また、原稿を読むのではなく、聴き手意識を持った発表ができるような力を身につける。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身につける。
- ・初見の文であっても正確にすばやく読み取れるように、練習を積む必要がある。
- ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法等を確かめ、読みやすく分かりやすい文章にする力を身につける。
- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身につける。また、文字を丁寧に書く習慣を身につける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身につけたい力を具体化・明確化し、生徒に、

常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。

- ・ねらいに沿った主体的な言語活動を積極的に取り入れる。
- ・ワークやプリントの点検等、生徒の個々の取組を評価する機会を日常的に取り入れる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・話す、書くについて、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、無闇に話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするための知識をきちんと与えた上で、効果的な資料などを引用・作成しながら取り組ませるようにする。
- ・読むことについて、音読（速読や群読等）を多く取り入れる。また、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。
- ・初見の文章に慣れるよう、定期的に実践問題を解く時間をつくる。回数をこなす中で徐々に読むスピードや正確さが向上していることを生徒自身が実感できるように工夫する。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・毎時間授業プリントを作成する。学習内容や流れが分かるように、単元ごとに通し番号をつけ、復習への手掛かりにできるようにする。
- ・必要に応じてワークシートを用意し、書くことへの負担を軽減させる。
- ・1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・5 分間程度の帯時間を利用して、漢字学習を行う。「覚える」→「練習する」→「確かめる」という学習の基本的な手順を踏ませながら、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。

エ 授業の受け方

- ・常に、手にペンを持ち、板書以外に、気づいたことや考えたこと等を書かせることで、授業への集中を促す。
- ・授業や単元の終わりに、必ず学習を振り返り、学習成果を確認させる。
- ・必要に応じて家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかける。
- ・考えを深め、広げられるよう、学びあいの機会を効果的に取り入れていく。